

海外人脈で加工機輸入

かつて造船で栄えた伊勢市大湊町に、海外とのネットワークを生かして木造建築の最新技術を取り入れ、普及に貢献する会社があると聞いて訪れた。造船の廃工場が残る住宅街の中に、「鈴工」の二階建ての事務棟とトタンの工場があった。

(青木ひかり)

鈴工（伊勢市）



迎えてくれたのは創業者の牛場まり子社長(78)、息子の牛場正人常務(48)。事務棟で皇学館大二年の高橋美優さん(20)、三重大二年の北森輝さん(22)と話を聞いた。

鈴工は一九七九年、木材搬送機メーカーとして始まった。当時は人を雇う方が

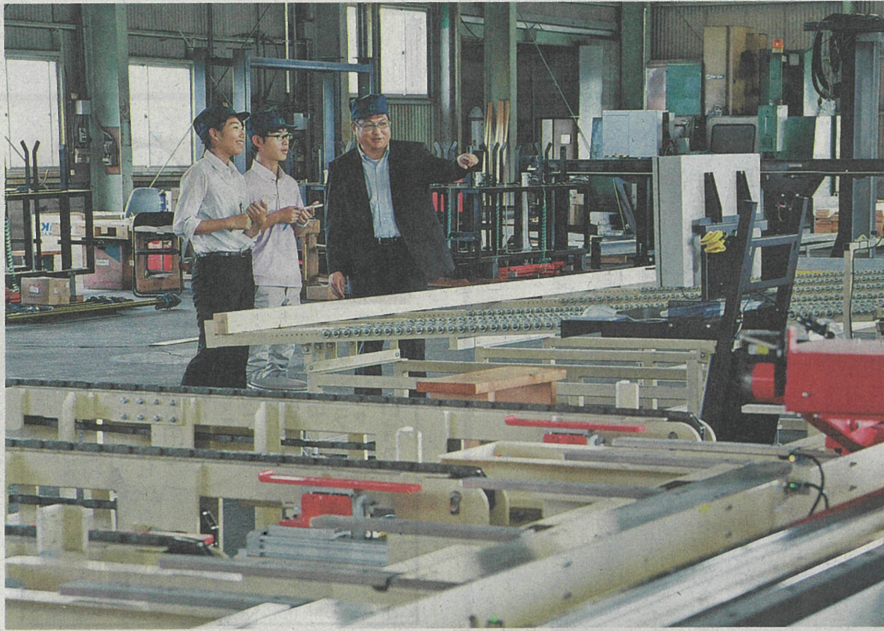
強みの海外ネットワークができたのは創業十年ほどたったころ。顧客が求める

「女だからという言葉に負けずにやってよかった」と創業時を振り返るまり子社長＝伊勢市大湊町で

「一社ずつオーダーメイドなので、機械化できないんです」と正人常務。隣接する塗装場でも、職人が部品を一つずつ黒や白に塗っていた。ピンク色のラインを注文されたこともある。

同社が開発した木材の切断、印付けをする機械の試運転を見せてもらった。木材を機械に入れると、設計図通りの大きさに切断され、壁や柱と交わる位置に印が付いた状態で出てくる。熟練の技が必要な工程が一瞬で終わる様子に学生たちは目を凝らした。

成長を続ける鈴工には、創業時からの目標がある。伊勢の優良企業になり地元大学の卒業生を雇い、伊勢の人口を増やすこと。ここ数年で志望者が増え、二〇一九年春には県外出身者も入社予定だ。「へこたれなかったから今がある。自分で決めたことを続けるのが大切」。まり子社長の言葉は学生にも響いたようだ。



正人常務(右)から木材加工機械の説明を受ける学生たち＝伊勢市の鈴工で

木材搬送機製造から事業拡大

鈴工 1979年創業。「チャレンジ」を社是に掲げ、木材搬送機の製造から、加工機の輸入、プラント設計へと事業を広げる。牛場まり子社長は日本赤十字社の理事を務めている。地域行事にも熱心で、本社がある伊勢市大湊町の防災訓練を主導。伊勢神宮に新米を納める「初穂束(びき)」にも会社全体で参加する。従業員65人(パート含む)。2018年4月期の売上高は35億円。



「女だからという言葉に負けずにやってよかった」と創業時を振り返るまり子社長＝伊勢市大湊町で

地元愛強く感じた

高橋美優さん(皇学館大現代日本社会学部2年・伊勢市神田久志本町) 伊勢からシヤに出荷することもある。お客さんが欲しい機械を探しにドイツに行ったり、CLTの研究を始めたりとチャレンジする行動力を見習いたい。

行動力見習いたい

北森輝さん(三重大医学部2年・名張市桔梗が丘五番町) オーダーメイドのプラントなど、顧客一人一人のことを考える姿勢を感じた。大湊に根差し、ここで仕事を続けていきたいという思いが強くなった。町と企業が一緒に盛り上がるのが大事だと思った。

成長を続ける鈴工には、創業時からの目標がある。

伊勢の優良企業になり地元大学の卒業生を雇い、伊勢の人口を増やすこと。ここ数年で志望者が増え、二〇一九年春には県外出身者も入社予定だ。「へこたれなかったから今がある。自分で決めたことを続けるのが大切」。まり子社長の言葉は学生にも響いたようだ。